Form No. 3457-698 Rev B

フロントリフトフレーム

Sand Pro®/Infield Pro® 5040トラクションユニット

モデル番号 08712—シリアル番号 311000336 以上

オペレーターズマニュアル

この製品は、関連する全ての欧州指令に適合しています。詳細についてはこの冊子の末尾にあるDOI適合宣誓書をご覧ください。

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	–	マシンの準備を行う。
2	必要なパーツはありません。	–	シュラウドを取り外す。
3	必要なパーツはありません。	–	
4	Oリング付きストレート油圧継手 Oリング付きエルボー油圧継手 昇降バルブ バルブプレート ボルト (1/4 x 3”) ロックナット1/4 インチ ボルト (#10 x 1-1/4”) ロックナット (#10) 昇降レバー	2 2 1 1 3 3 2 2 1	リフトバルブモデル08705を取り付ける。
5	Oリング付きストレート油圧継手 Oリング付きエルボー油圧継手 昇降バルブ バルブプレート ボルト (1/4 x 3”) ロックナット1/4 インチ ボルト (#10 x 1-1/4”) ロックナット (#10) 昇降レバー	2 2 1 1 3 3 2 2 1	リフトバルブモデル08745を取り付ける。
6	右側プラウプレート 左側プラウプレート ボルト½ x 2" ロックナット½" ヒッチフレームブラケット ボルト½" x 1¾"	1 1 4 4 1 2	プラウプレートを取り付ける。

© 2024—The Toro® Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420

製品の登録は www.Toro.com.

この文書は翻訳です。 (JA)
Printed in the USA
禁無断転載
3457-698

手順	内容	数量	用途
7	ヒッチフレーム ボルト3/8 x 2 インチ ナット⅜" キャップスクリュー(3/8 x 1-1/2") ロックナット⅜" シリンダピン アダプタプレート プッシュアームチューブ ピンアセンブリ ネジ山形成ネジ ボルト5/8 x 1½" ワッシャー (外径1.68" x 内径 0.65") チューブ クレビスピン コッターピン	1 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 1 1 1	プッシュアームとヒッチフレームを取り付ける。
8	Oリング付き45° 油圧継手 油圧シリンダ 90° 油圧フィッティングリング付き リテーナリング小 ピン リテーナリング大	1 1 1 1 1 2	油圧シリンダーを取り付ける。
9	チューブアセンブリ 油圧ホース部品番号108-8449 油圧ホース品番108-8453 油圧ホース品番108-8454 ワイヤーホースホルダー ねじ山形成ねじ (5/16 x 3/4") プラスチック製ケーブル・タイ	1 1 1 1 1 2 3	油圧ホースモデル08705を取り付ける。
10	チューブアセンブリ 油圧ホース部品番号108-8449 油圧ホース部品番号108-8453 油圧ホース部品番号108-8454 ワイヤーホースホルダー ねじ山形成ねじ (5/16 x 3/4") プラスチック製ケーブル・タイ	1 1 1 1 1 2 3	油圧ホースモデル08745を取り付ける。
11	レバーガイドプレート フランジヘッドねじ ワッシャ 操作パネルのデカール コントロールパネル ノブ プラスチック製ケーブル・タイ	1 2 2 1 1 1 3	操作パネルとレバーガイドプレートを取り付ける。
12	オペレーターズマニュアル	1	お読みになった後、安全な場所に保管してください。

1

マシンの準備を行う

必要なパーツはありません。

手順

1. 平らな場所に駐車する。
2. アタッチメントを降下させる。
3. 駐車ブレーキを掛ける。
4. エンジンを止め、キーを抜き取る。

2

シュラウドの取り外し

必要なパーツはありません。

手順

1. マシンの後部を上げ、ジャッキを後輪モーターマウントの下に置く。
2. 右後ろのタイヤを取り外す。
3. コントロールパネルをコンソールに取り付けている4つのワッシャーとボルトを取り外す(図 1)。
4. アワーメーターからワイヤーを外す。
5. コントロールパネルを取り外す図 1。
6. コンソールをフレームに固定しているボルト3本を取り外す (図 1)。コンソールの下端をサポートブラケットの周囲でゆっくりと持ち上げ、ブレーキハンドルを超えて上にスライドさせて、コンソールを取り外す。

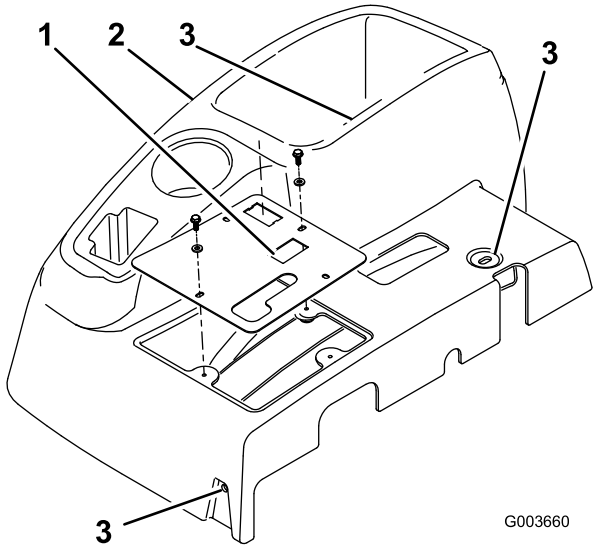


図 1

1. コントロールパネル
2. コンソール
3. コンソール取り付けボルトの位置

7. 右側ホイールシュラウドをフレームに固定しているボルト4本を外し、シュラウドを取り外す (図 2)。

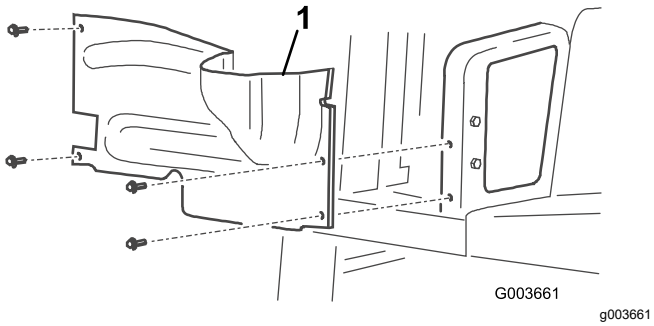


図 2

1. 右側ホイールシュラウド

8. センターシュラウドをフレームから取り外す (図 3)。

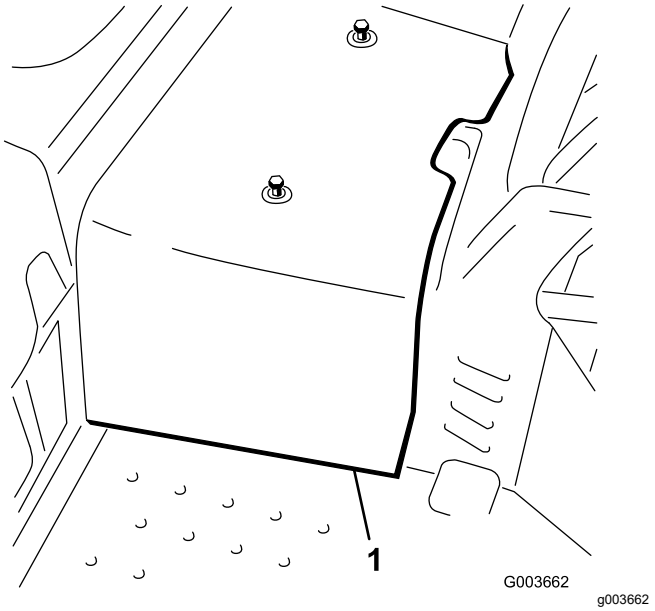


図 3

1. センターシュラウド

3

油圧コンポーネントの取り付けの準備

必要なパーツはありません。

手順

1. オイルクーラーから既存のリフトバルブに向かう油圧チューブを見つける(図 4)。
2. 油圧チューブをフレームに固定しているファスナーとチューブクランプを取り外す。
3. オイルクーラーとリフトバルブから油圧チューブを外す図 4および図 6。

   注 この油圧チューブは廃棄しても構わない。

   注 油圧チューブを取り外す際のオイル損失を最小限に抑えるには、交換用ホースを用意するか、チューブアセンブリ (部品番号108-8447) から取り外した輸送用保護キャップの1つを使ってクーラーのフィッティングにキャップを付ける図 19。

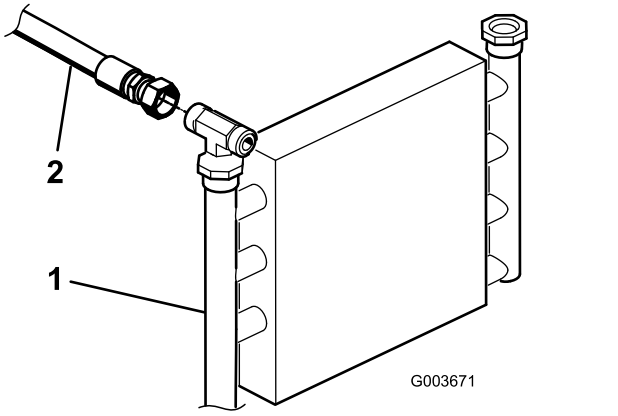


図 4

1. オイルクーラ
2. 油圧チューブ

4. 前に取り外したクランプと留め具を使って、残りの油圧チューブをフレームに固定する。
5. このキットを型番08745のマシンに取り付ける場合は、次の手順を実行する
   A. 既存のリフトバルブをフレームに固定している3つのボルトとナットを取り外し、フレームから分離して、 図 5に示すように、T字継手 (340-94) を取り外せるようにする。
   B. 既存のリフトバルブの左側にあるエルボー継手 (340-77) から油圧チューブ (108-8415) を取り外す。
   C. 図 6に示すように、油圧ホース (144-1367) をT字継手 (340-94) から外す。
   D. 既存のリフトバルブの右側にあるT字継手 (340-94) を緩める。
   E. T字継手 (340-94) を既存のバルブから取り外し、後で取り付けるために保管しておく。

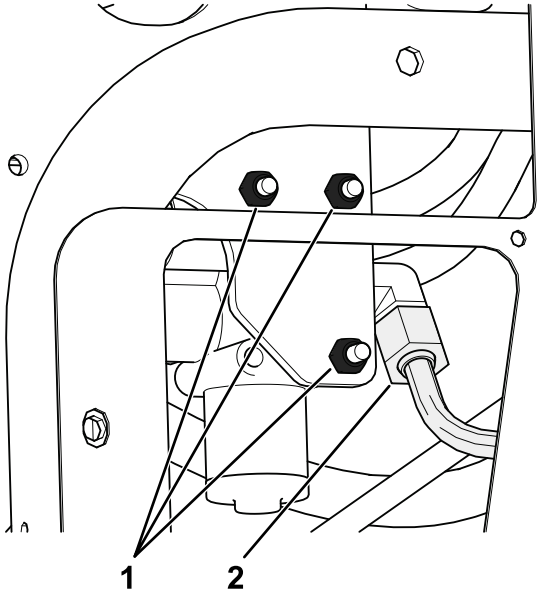


図 5

1. これらのボルトとナットを取り外す。
2. この油圧チューブ (108-8415) をエルボー継手から外す。

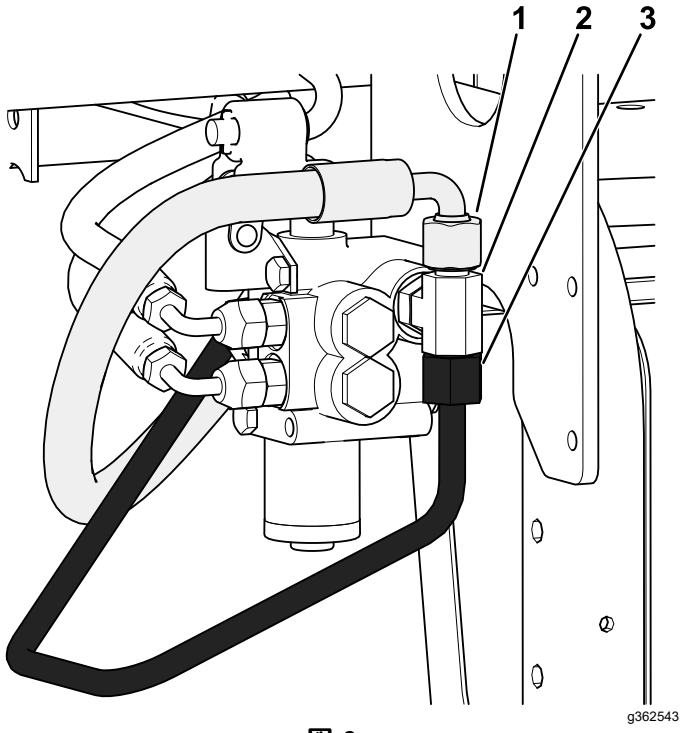


図 6

1. 油圧ホース (144-1367) をT字継手 (340-94) から外す。
2. このT字継手 (340-94) を既存のバルブから外す。
3. T字継手に接続されているこの油圧チューブを取り外して廃棄する。

4

昇降バルブを取り付ける

モデル 08705 のみ

この作業に必要なパーツ

2	Oリング付きストレート油圧継手
2	Oリング付きエルボー油圧継手
1	昇降バルブ
1	バルブプレート
3	ボルト (1/4 x 3”)
3	ロックナット1/4 インチ
2	ボルト (#10 x 1-1/4”)
2	ロックナット (#10)
1	昇降レバー

手順

1. 図 7に示すように、エルボー継手と2つのストレート油圧継手の両方を新しいリフトバルブにねじ込む。

   重要 **この時点ではエルボー継手を締めないこと。取り付ける前に、全てのOリングに潤滑剤が行き渡り、継手に適切に配置されるようにする。**

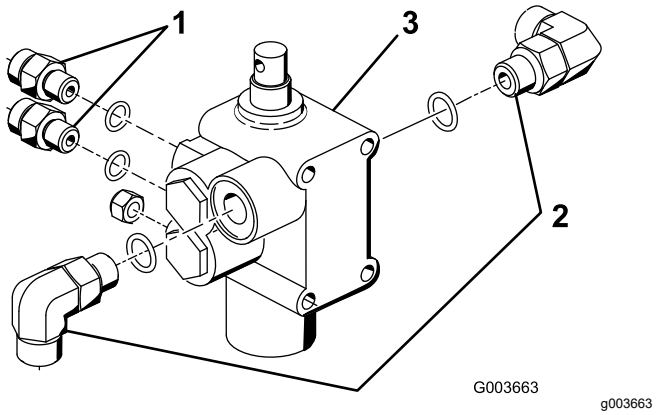


図 7

1. ストレート継手
2. エルボー継手
3. 昇降バルブ

2. 1/4 x 3” ボルト3本とロックナット3個を使って、バルブアセンブリ、ピボットブラケット、およびバルブプレートをフレームに取り付けまる(図 8)。取り付ける際に、バルブプレートをフレームメンバーの前面に配置し、留め具を10 12 N·m (1.08 1.30kgm) のトルクで締め付ける。

注 バルブの取り付けは、既に取り付けられている既存のバルブと非常に似ている。

3. ボルト (#10 x 1-1/4”)2本 とロックナット2個を使って、ピボットレバー アセンブリをバルブ スプールとオフセットリンクに仮り止めする(図 8) 。

   注 この時点では留め具を締めないこと。

   注 オフセットリンクをピボット後部の穴に取り付ける。

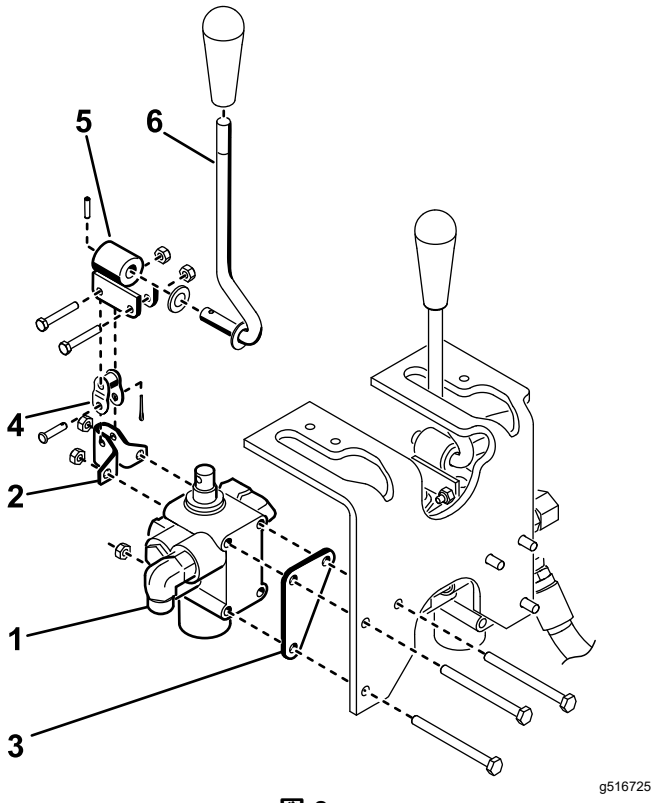


図 8

1. バルブアセンブリ
2. ピボットブラケット
3. バルブプレート
4. オフセットリンク
5. ピボット
6. レバー

5

昇降バルブを取り付ける

モデル 08745 のみ

この作業に必要なパーツ

2	Oリング付きストレート油圧継手
2	Oリング付きエルボー油圧継手
1	昇降バルブ
1	バルブプレート
3	ボルト (1/4 x 3”)
3	ロックナット1/4 インチ
2	ボルト (#10 x 1-1/4”)
2	ロックナット (#10)
1	昇降レバー

手順

1. T字継手が取り外された既存のリフトバルブにエルボー継手をねじ込む。

   重要 **この時点ではストレート継手のみを締めること。取り付ける前に、全てのOリングに潤滑剤が行き渡り、フィッティングに適切に配置されるようにする。**

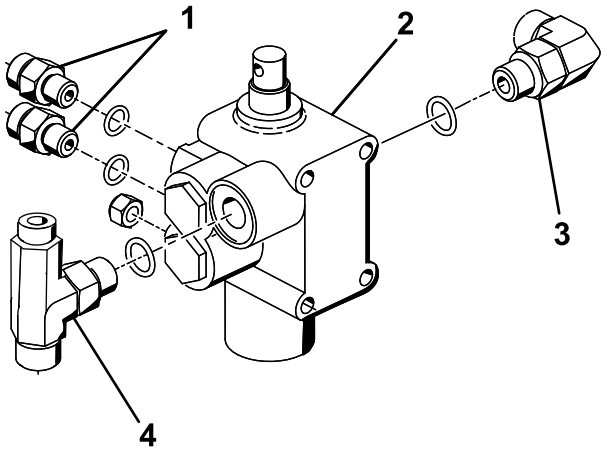


図 9

1. ストレート継手
2. エルボー継手
3. 昇降バルブ
4. T字継手

2. 以前に取り外したハードウェアを使って既存のリフトバルブを取り付け、留め具を10 12 N·m (1.08 1.30kgm) のトルクで締め付ける。

3. 図 9 に示すように、3 油圧コンポーネントの取り付けの準備 (ページ 4)の既存のバルブから取り外したエルボー継手、2つのストレート油圧継手、およびT字継手を新しいリフトバルブにねじ込む。
4. 1/4 x 3” ボルト3本とロックナット3個を使って、バルブアセンブリ、ピボットブラケット、およびバルブプレートをフレームに取り付けまる(図 10) 。取り付ける際に、バルブプレートをフレームメンバーの前面に配置し、留め具を1012 N·m (1.081.30kgm) のトルクで締め付ける。

   注 バルブの取り付けは、現在取り付けられているバルブと非常に似ている。
5. ボルト (#10 x 1-1/4”)2本 とロックナット2個を使って、ピボットレバー アセンブリをバルブ スプールとオフセットリンクに仮り止めする(図 10) 。

   注 この時点では留め具を締めないこと。

   注 オフセットリンクをピボット後部の穴に取り付ける。

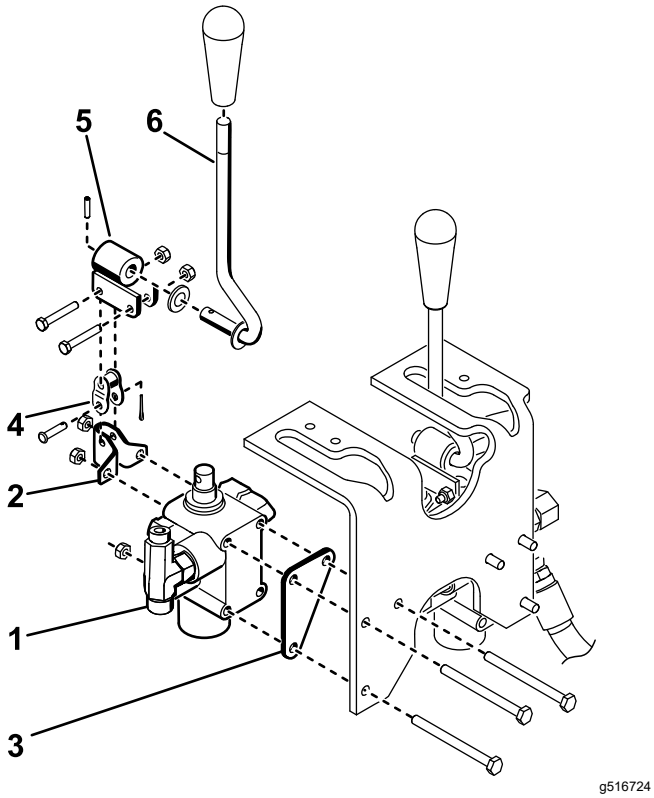


図 10

1. バルブアセンブリ
2. ピボットブラケット
3. バルブプレート
4. オフセットリンク
5. ピボット
6. レバー

6 プラウプレートの取り付け

この作業に必要なパーツ

1	右側プラウプレート
1	左側プラウプレート
4	ボルト½ x 2"
4	ロックナット½"
1	ヒッチフレームブラケット
2	ボルト½" x 1¾"

手順

1. 図 11に示すように、ボルト1/2 x 2 ”2本とロックナットを使って、右側プラウプレートをキャスターフォークの右側に仮止めする。

   注 この時点ではまだ留め具を締めないこと。
2. 左側プラウ プレートでも同じ手順を繰り返す (図 11)。
3. フロントタイヤがフロアから離れるまで、マシンの前側をジャッキアップする。
4. ステアリングピボットの前部をキャスターフォークの上部に固定しているボルト2本を取り外して廃棄する (図 11)。
5. キャスターフォークとステアリングピボットの取り付け穴を使って、ヒッチフレームブラケットをボルト(1/2 x 1-3/4”)2本でキャスターフォークの下側に取り付ける。図 11を参照方。

   注 隙間を確保するために、タイヤの空気圧を部分的に抜く必要がある場合がある。ホイールモーターの油圧ホースはヒッチフレームブラケットの上に置かないこと。

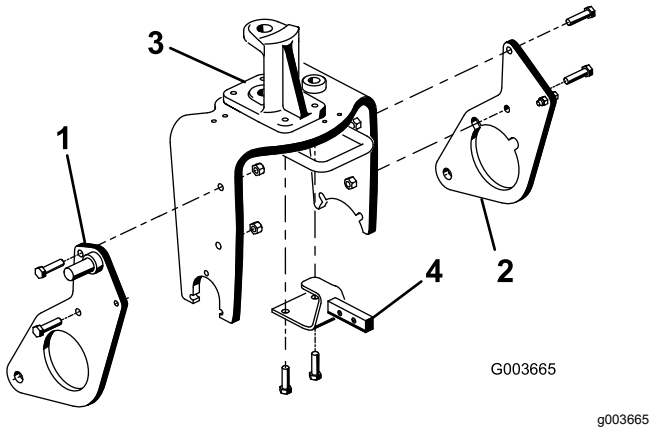


図 11

1. 右側プラウプレート
2. 左側プラウプレート
3. ステアリングピボット
4. ヒッチフレームブラケット

7

プッシュアームとヒッチフレームの取り付け

この作業に必要なパーツ

1	ヒッチフレーム
2	ボルト3/8 x 2 インチ
2	ナット⅜"
2	キャップスクリュー(3/8 x 1-1/2”)
2	ロックナット⅜"
2	シリンダピン
1	アダプタプレート
1	プッシュアームチューブ
2	ピンアセンブリ
2	ネジ山形成ネジ
2	ボルト5/8 x 1½"
2	ワッシャー (外径1.68” x 内径 0.65”)
1	チューブ
1	クレビスピン
1	コッターピン

手順

1. 前輪がフロアに着くようにマシンを下げる。
2. 2個のピン アセンブリを使ってプッシュアームチューブをアダプタ プレートに固定し、ネジ山形成ネジ2本を使ってピンアセンブリをアダプタ プレートに固定するす。

   注 各コンポーネントは 図 12 のように組み付ける。

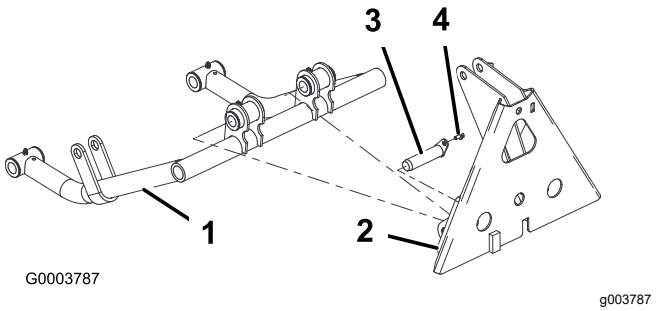


図 12

1. プッシュアームチューブ
2. アダプタプレート
3. ピンアセンブリ
4. ネジ山形成ネジ

3. 図 13に示すように、シリンダピンを各プッシュアームチューブに挿入する。
4. シリンダピンガイドをプラウプレートの穴に合わせ、プッシュアーム チューブを左右のプラウ プレートに挿入する(図 13)。

   注 プッシュアームチューブをプラウプレートの周りに取り付けることができない場合は、プラウプレートをキャスターフォークに固定しているナットを緩める。
5. 図 13に示すように、ボルト (5/8 x 1-1/2”) とワッシャー (外径1.68” x 内径0.65”) を使って、各シリンダ ピンを各プラウ プレートに取り付ける。

   注 ボルトを 203 N.m(9.7 kg.m = 150 ft-lbにトルク締めする。

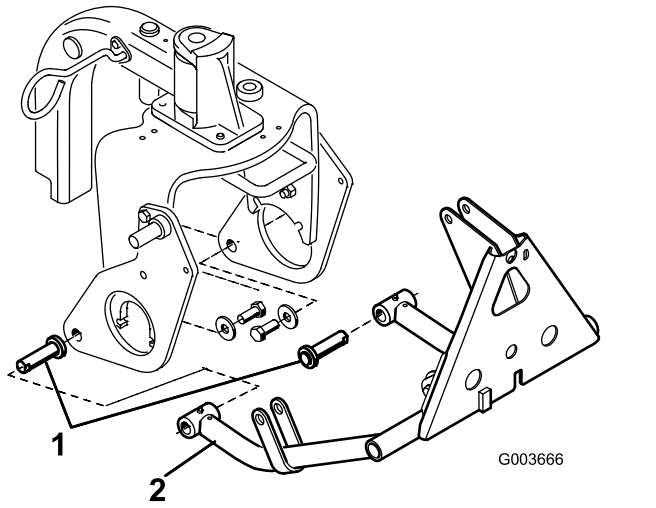


図 13

1. シリンダピン
2. プッシュアームチューブ

6. ボルト (3/8 x 2”) 2本とナットを使って、ヒッチフレームの上部をヒッチフレームブラケットに取り付ける (図 14) 。
7. ボルト (3/8 x 1-1/2”) とナットを使って、ヒッチフレームチューブをプラウプレートに取り付け、留め具を締める (図 14) 。

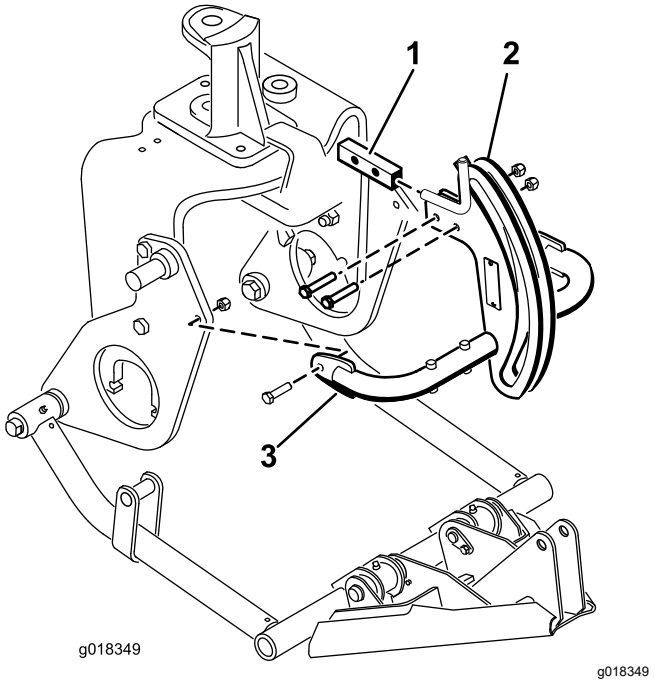


図 14

1. ヒッチフレームブラケット
2. ヒッチフレーム
3. ヒッチフレームチューブ

8. フレームアダプターをチューブ、クレビスピン、コッターピンを使ってヒッチフレームに固定する (図 15)。

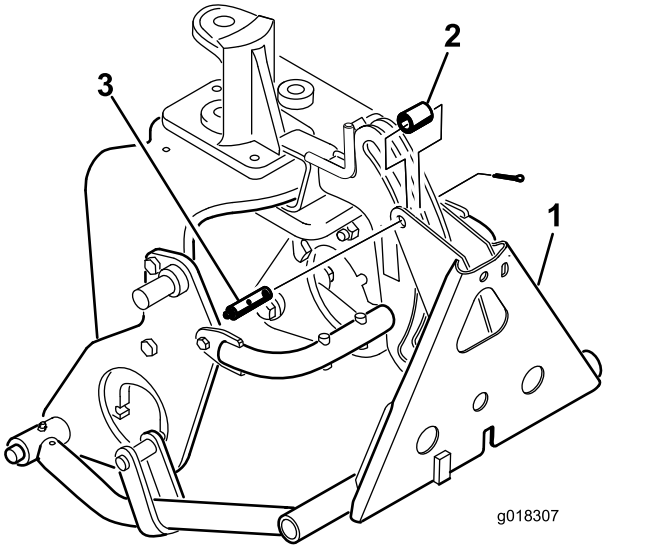


図 15

1. フレームアダプター
2. チューブ
3. グリースフィッティング付クレビスピン

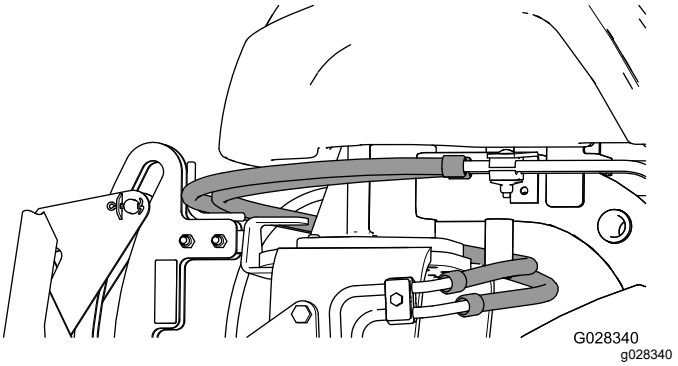


図 16

重要 **図 16に示すように、既存のホースがガイドの上に這い回しされるようにする。**

8

油圧シリンダーの取り付

この作業に必要なパーツ

1	Oリング付き45° 油圧継手
1	油圧シリンダ
1	90° 油圧フィッティングリング付き
1	リテーナリング 小
1	ピン
2	リテーナリング 大

手順

1. エルボ継手を油圧シリンダーの上部ポートにねじ込む。図 17に示すように継手を配置する。

   注 取り付ける前に、全てのOリングに潤滑剤が行き渡り、継手に適切に配置されるようにする。

   注 油圧継手やホースの汚染を防ぐため、取り付けるまでは継手やホースからキャップを取り外さないこと。

2. 45°継手を油圧シリンダーの下部ポートにねじ込む。図 17に示すように継手を配置する。

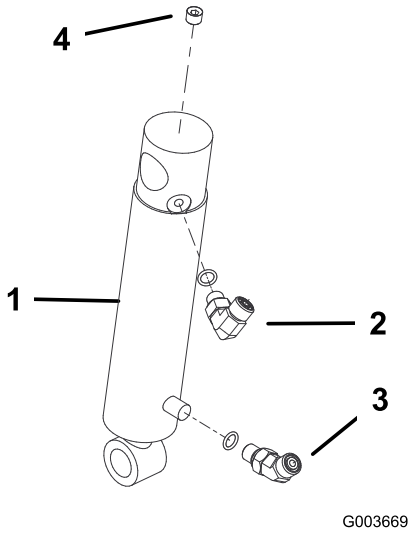


図 17

1. 油圧シリンダ
2. エルボー継手
3. 45°継手
4. プラグ(1/8")

3. 油圧シリンダのバレルの上部を、保持リングを使って右側のプラウプレートのピンに取り付ける (図 18)。

   注 シリンダーの油圧ポートを前方に配置する。

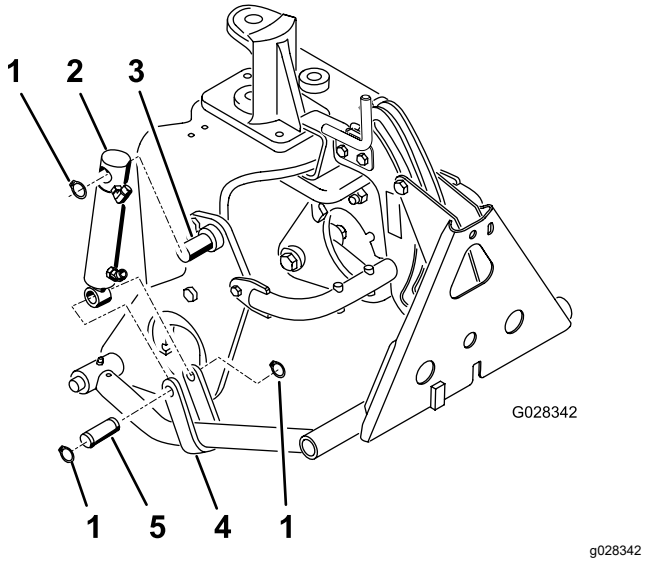


図 18

1. リテーナリング
2. 油圧シリンダ
3. ピンプラウプレート上
4. プッシュアームストラップ
5. ピン

4. ピンと保持リング2個を使って、シリンダーロッドをプッシュ アームストラップに取り付ける (図 18)。

9

油圧ホースを取り付ける

モデル 08705 のみ

この作業に必要なパーツ

1	チューブアセンブリ
1	油圧ホース部品番号108-8449
1	油圧ホース品番108-8453
1	油圧ホース品番108-8454
1	ワイヤーホースホルダー
2	ねじ山形成ねじ (5/16 x 3/4")
3	プラスチック製ケーブル・タイ

手順

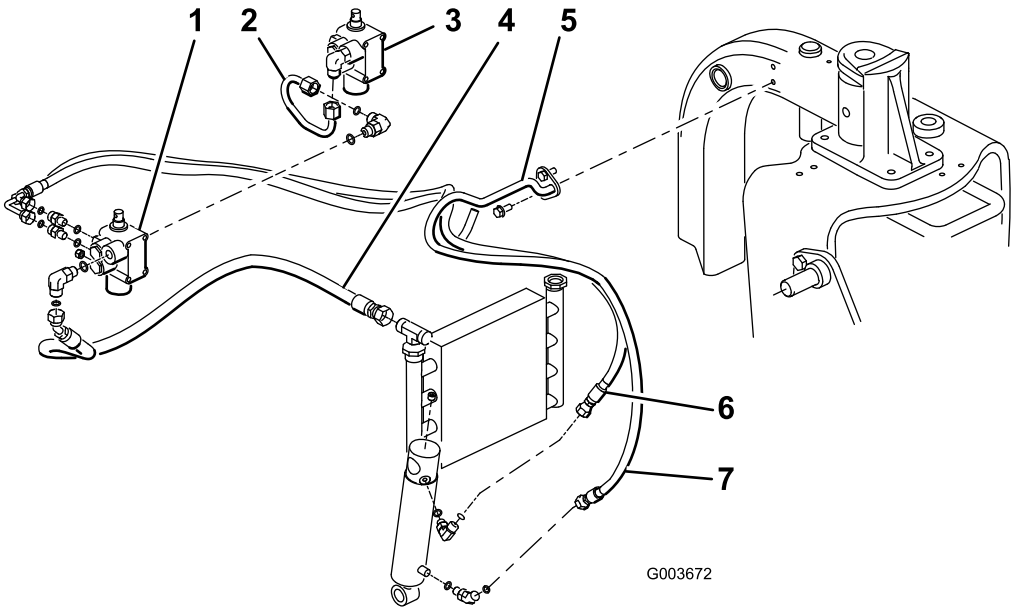
1. チューブアセンブリ (部品番号 108-8447) を、新しいバルブの左側にあるエルボ継手と、既存のリフトバルブの空いた継手に接続する (図 19)。
2. 油圧ホース (部品番号 108-8449) の 45°継手端をバルブ右側のエルボ継手に接続し、ホースのストレート端をオイル クーラーの空いている継手

に接続する (図 19) 。ホースの取り回しについては、 図 20と 図 21を参照方。

3. ネジ山形成ネジ (5/16 x 3/4”) 2本を使って、ワイヤホースホルダーを左側のフレームチューブに取り付ける。図 19を参照方。
4. 油圧ホース (部品番号108-8453) の短いエルボ継手端をバルブ後部の上部ストレート継手に接続する。ホースをワイヤーホースホルダーに通して取り回し、ホースのストレート端を上部の油圧シリンダー継手に接続する (図 19) 。ホースの取り回しについては、 図 20と 図 21を参照方。
5. 油圧ホース (部品番号108-8454) の長いエルボ継手端をバルブ後部の下部ストレート継手に接続する。ホースをワイヤーホースホルダーに通して取り回し、ホースのストレート端を下部の油圧シリンダー継手に接続する (図 19) 。ホースの取り回しについては、 図 20と 図 21を参照方。

重要 **ホースは鋭利、高温、または可動する部品から遠ざけて配線されるようにすること。**

6. 全ての留め具と付属品を締める。
7. ケーブルタイを使って、 図 20と 図 21に示す位置でホースをマシンに固定する。



g003672

図 19

モデル 08705

1. 新しいバルブ
2. チューブアセンブリ品番 108-8447
3. 既存のバルブ
4. 油圧ホース 部品番号 108-8449
5. ワイヤーホースホルダー
6. 油圧ホース 部品番号 108-8453
7. 油圧ホース 部品番号 108-8454

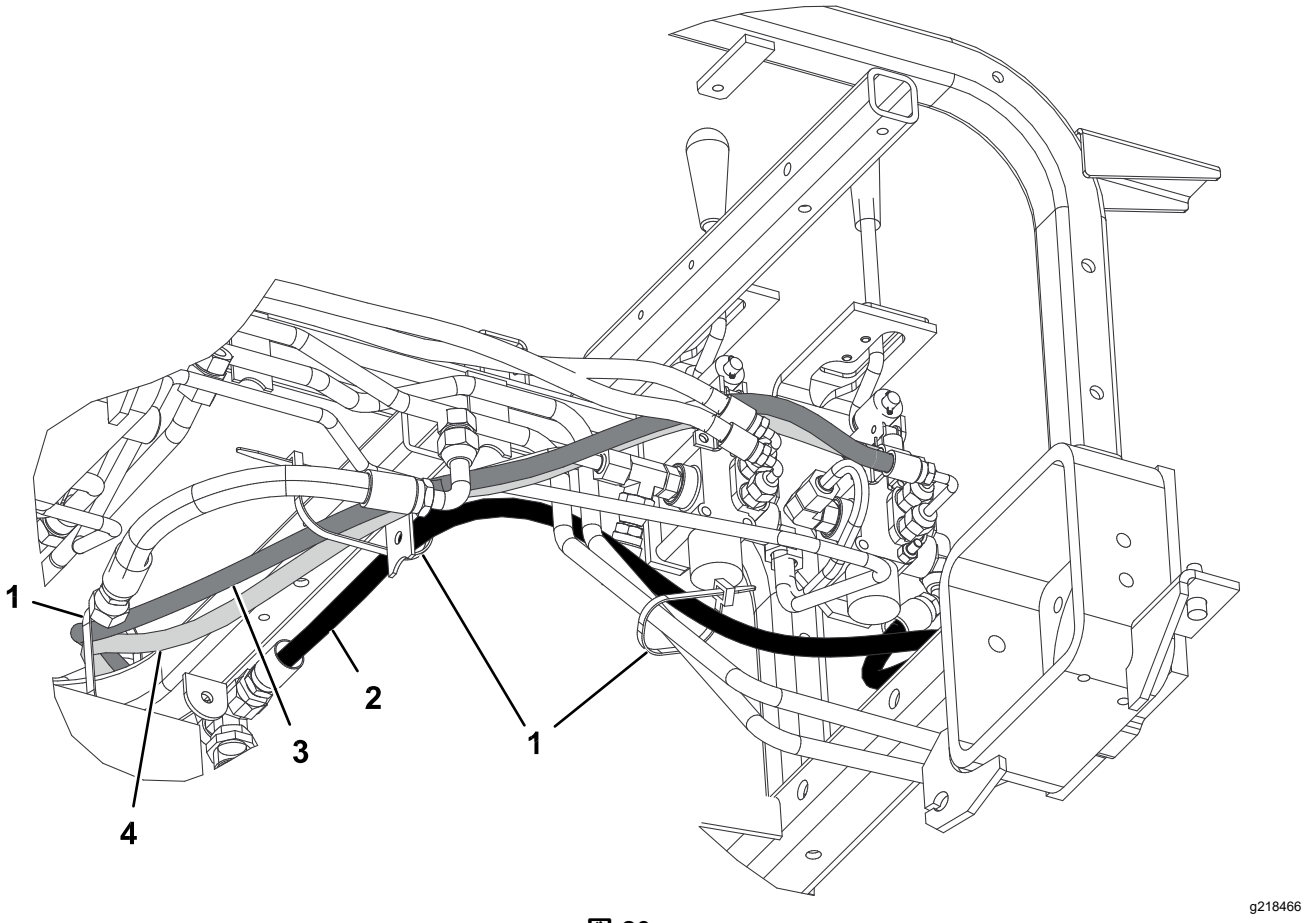
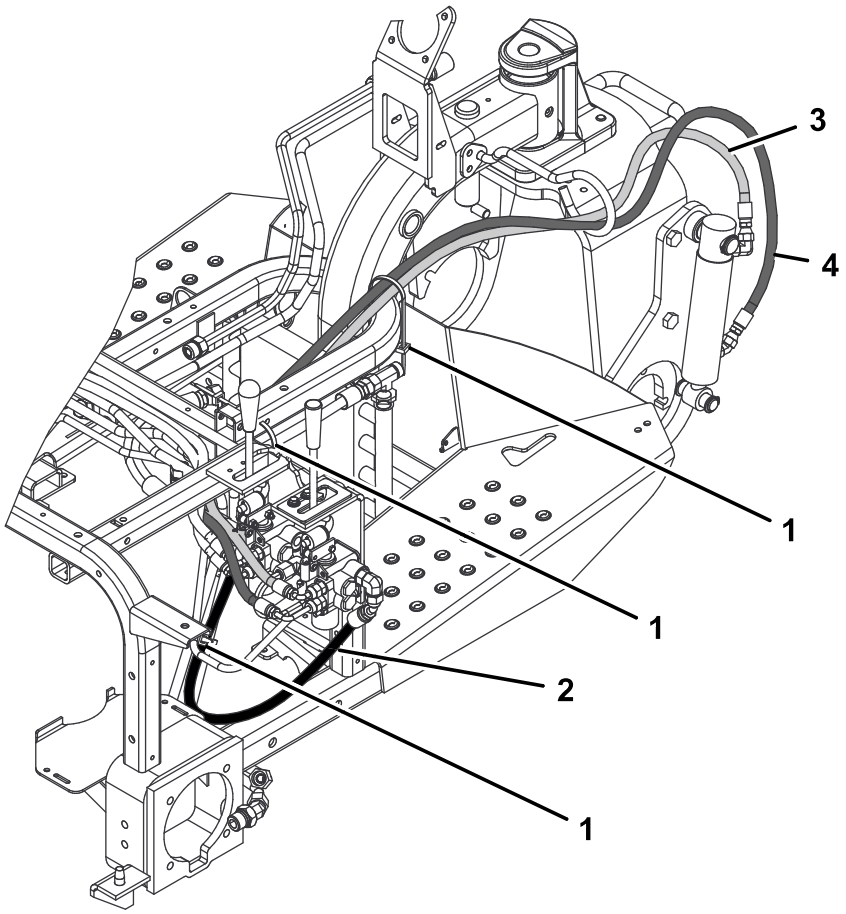


図 20
モデル 08705

1. ケーブルタイ
2. 油圧ホース部品番号 108-8449
3. 油圧ホース部品番号 108-8453
4. 油圧ホース部品番号 108-8454



g218467

図 21

モデル 08705

1. ケーブルタイ
2. 油圧ホース部品番号108-8449
3. 油圧ホース部品番号108-8453
4. 油圧ホース部品番号108-8454

10

油圧ホースを取り付ける

モデル 08745 のみ

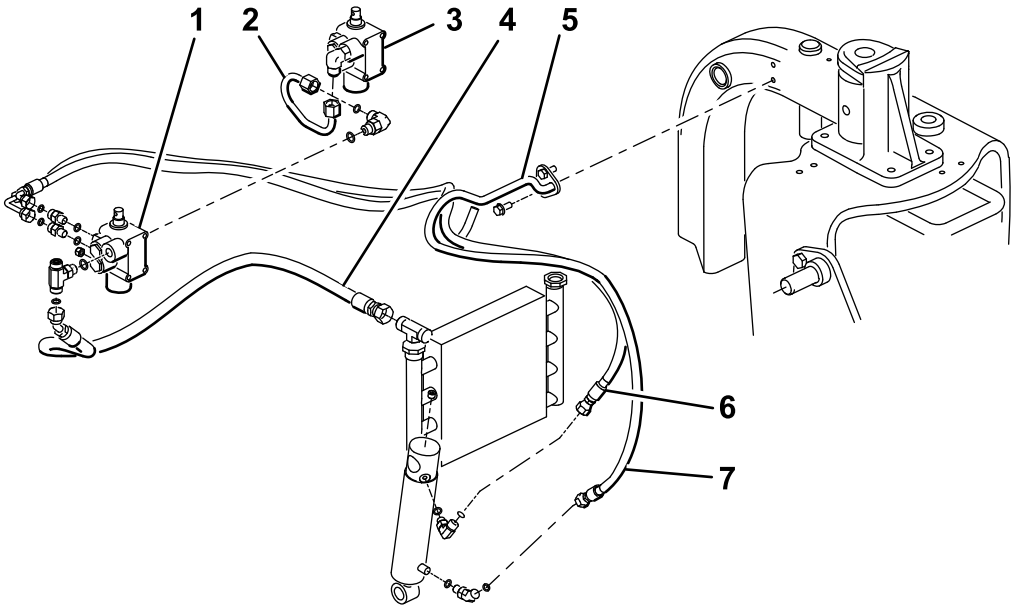
この作業に必要なパーツ

1	チューブアセンブリ
1	油圧ホース部品番号108-8449
1	油圧ホース部品番号108-8453
1	油圧ホース部品番号108-8454
1	ワイヤーホースホルダー
2	ねじ山形成ねじ (5/16 x 3/4”)
3	プラスチック製ケーブル・タイ

手順

1. チューブアセンブリ (部品番号 108-8447) を、新しいバルブの左側にあるエルボ継手と、既存のリフトバルブに新しく取り付けられたエルボ継手に接続する (図 22)。
2. 油圧ホース (部品番号 108-8449) の 45°継手端をバルブ右側のエルボ継手の開いた側に接続し、ホースのストレート端をオイル クーラーの空いている継手に接続する (図 22) 。ホースの取り回しについては、 図 23と 図 24を参照方。
3. ネジ山形成ネジ (5/16 x 3/4”) 2本を使って、ワイヤホースホルダーを左側のフレームチューブに取り付ける。図 22を参照方。
4. 油圧ホース (部品番号108-8453) の短いエルボ継手端をバルブ後部の上部ストレート継手に接続する。ホースをワイヤーホースホルダーに通して取り回し、ホースのストレート端を上部の油圧シリンダー継手に接続する (図 22) 。ホースの取り回しについては、 図 23と 図 24を参照方。
5. 油圧ホース (部品番号108-8454) の長いエルボ継手端をバルブ後部の下部ストレート継手に接続する。ホースをワイヤーホースホルダーに通して取り回し、ホースのストレート端を下部の油圧シリンダー継手に接続する (図 22) 。ホースの取り回しについては、 図 23と 図 24を参照方。
6. 油圧ホース (部品番号144-1367) を、新しいリフトバルブの右側に新しく取り付けられたT字継手 (部品番号340-94) の上部に接続する。

   重要 **ホースは鋭利、高温、または可動する部品から遠ざけて配線されるようにすること。**
7. 全ての留め具と付属品を締める。
8. ケーブルタイを使って、 図 23と 図 24に示す位置でホースをマシンに固定する。



g362578

図 22
モデル 08745

1. 新しいバルブ
2. チューブアセンブリ部品番号 108-8447
3. 既存のバルブ
4. 油圧ホース品番108-8449
5. ワイヤーホースホルダー
6. 油圧ホース品番108-8453
7. 油圧ホース 部品番号 108-8454

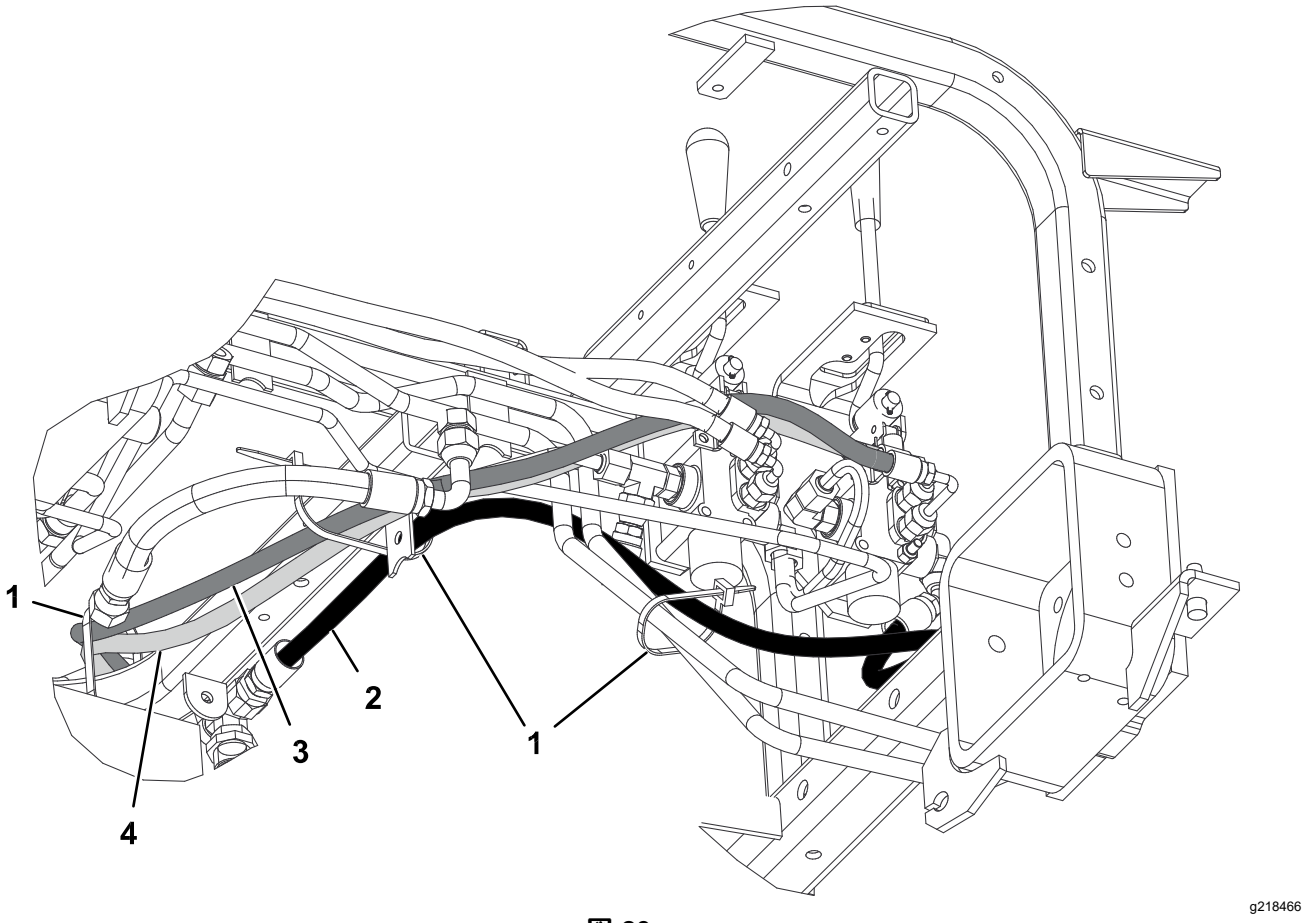
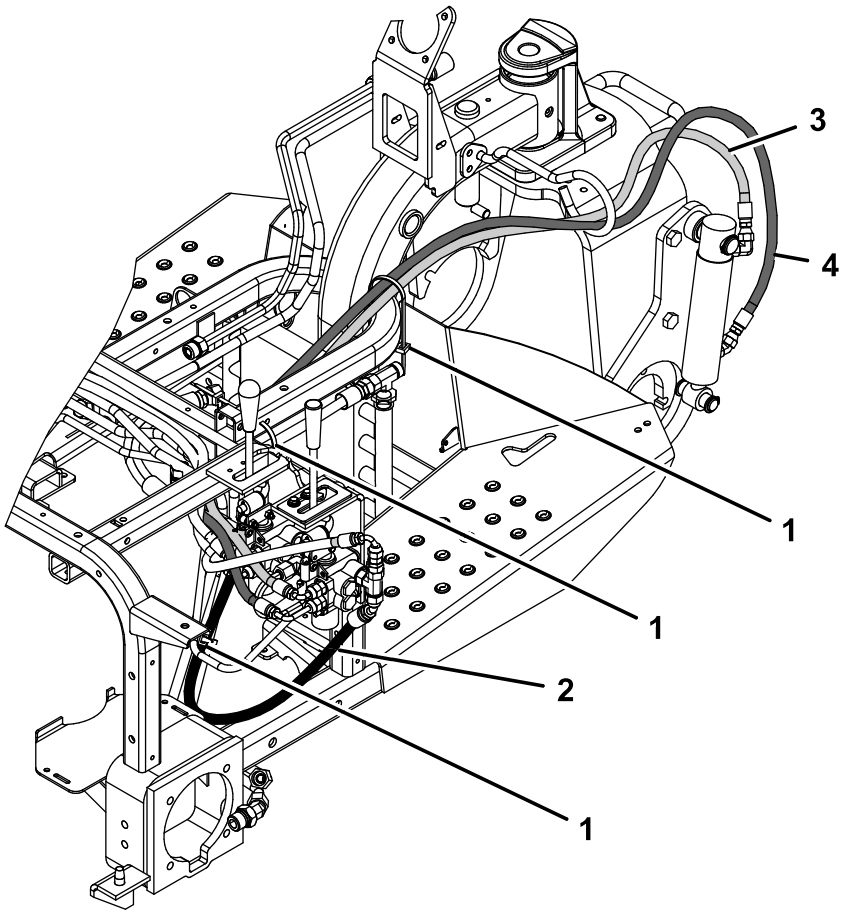


図 23
モデル 08745

1. ケーブルタイ
2. 油圧ホース品番108-8449
3. 油圧ホース品番108-8453
4. 油圧ホース品番108-8454



g362591

図 24
モデル 08745

1. ケーブルタイ
2. 油圧ホース品番108-8449
3. 油圧ホース品番108-8453
4. 油圧ホース品番108-8454

11

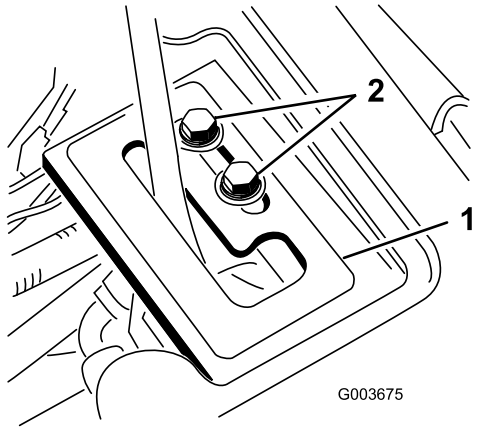
操作パネルとレバーガイドプレートの取り付け

この作業に必要なパーツ

1	レバーガイドプレート
2	フランジヘッドねじ
2	ワッシャ
1	操作パネルのデカール
1	コントロールパネル
1	ノブ
3	プラスチック製ケーブル・タイ

手順

1. レバーガイドプレートをリフトレバーに挿入し、フランジヘッドネジ2本とワッシャーでフレームに仮止めする()図 25 。



g003675

図 25

1. レバーガイドプレート　　2. フランジヘッドネジ

2. 作動油レベルをチェックし、必要に応じて作動油を補充する。

⚠ 警告

高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大 な損傷を引き起こす。

- **万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受ける必要がある。処置が遅れると傷口が壊疽を起こす危険がある。**
- **ピンホールの漏れや高圧の作動油を噴射するノズルに体や手を近づけないこと。**
- **リークの点検には新聞紙やボール紙を使用すること。**
- **油圧関係の整備を行う時は、内部の圧力を確実に解放すること。**
- **油圧装置を作動させる前に、全部のラインコネクタが適切に接続されていること、およびラインやホースの状態が良好であることを確認してください。**

3. トラクションユニットのエンジンを始動し、継手の接続状況をチェックする。
4. ホイールシュラウド、センターシュラウド、コンソールを取り付ける。

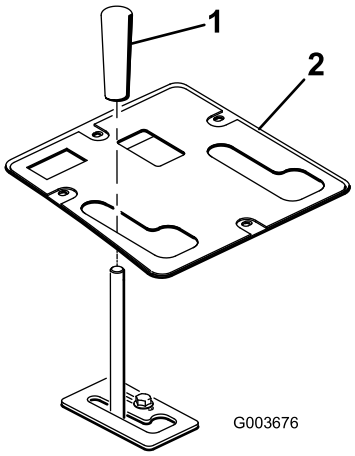
   注 この時点ではコントロールパネルを設置しないこと。シュラウドがホースに干渉しないようにする。要求通りにホースを取り回す。ステップ1で行ったのと逆の手順でシュラウドを取り付ける。
5. リアタイヤを取り付け、マシン後部の下にあるブロックを取り外す。
6. ラグナットを61-136 N·m (6.6-8.1kg·m)のトルクで締め付ける。
7. エンジンが作動し、リフトレバーが**フロート**位置にある状態で、リフトシリンダーが手で伸縮できるまでレバーガイドプレートをスライドさせる (図 25)。

⚠ 警告

昇降レバーの戻り止めプレートの最終調整は、エンジンを回転させた状態で行う必要がある。可動部や高温部に触れると非常に危険である。

手足や顔や衣服を回転部やマフラなどに近づけないよう十分注意すること。

8. 両方のリフトレバーガイドプレート取り付けネジを締め付けて調整結果を固定する図 25。
9. 古いコントロールパネルからアワーメーターを取り外し、新しいコントロールパネルに取り付ける。
10. 新しいコントロールパネルを取り付け、アワーメーターにワイヤーを差し込む。
11. 前に取り外した留め具を使って、コントロールパネルを所定の位置に固定する (図 26)。



g003676

図 26

1. ノブ
2. コントロールパネル

12. リフトレバーにノブを取り付ける(図 26)。
13. フロントリフトフレームにグリースを塗る。 リフトフレームのグリスアップ (ページ 19)を参照方。
14. 作動油レベルをチェックし、必要に応じて作動油を補充する。

12

書類を読み、保管する

この作業に必要なパーツ

1	*オペレーターズマニュアル*

手順

1. 書類を読む。
2. 安全な場所に書類を保管する。

運転操作

仕様

純重量	38.5 kg (85 lb)

アタッチメントとアクセサリ

トロが認定した各種のアタッチメントやアクセサリがそろっており、マシンの機能をさらに広げることができます。詳細は弊社の正規サービスディーラ、または代理店へお問い合わせください。www.Toro.comでもすべての認定アタッチメントとアクセサリをご覧になることができます。

ヒント

- フロントリフトフレームは、特定のアタッチメントのみを受け入れるように設計されている。マシンが損傷する可能性があるため、リアマウントアタッチメントをフロントリフトフレームに取り付けようとしないこと。
- フロントリフトフレーを下げるには、レバーを前方に押す。
- フロントリフトフレームを浮かせるには、リフトレバーを前方に押し、次に横の戻り止めに入れる。
- フロントリフトフレーを上げるには、レバーを後方に引く。
- 各部の操作方法や本機の正しい使用方法、警告表示などに十分慣れ、安全に運転できるようになりましょう。
- 手や足を可動部品や高温の表面に近づけないこと。

保守

注 配線図や油圧回路図はオンラインで入手可能です www.Toro.com。

リフトフレームのグリスアップ

フロントリフトフレームには5つのグリースフィッティングがあり (図 27) 、No. 2リチウムグリースで定期的に潤滑する必要がある。通常の使用では 100 運転時間ごとにベアリングとブッシュのグリスアップを行います。指定の間隔に関係なく、洗浄**後は毎回**ベアリングとブッシュに注油すること。

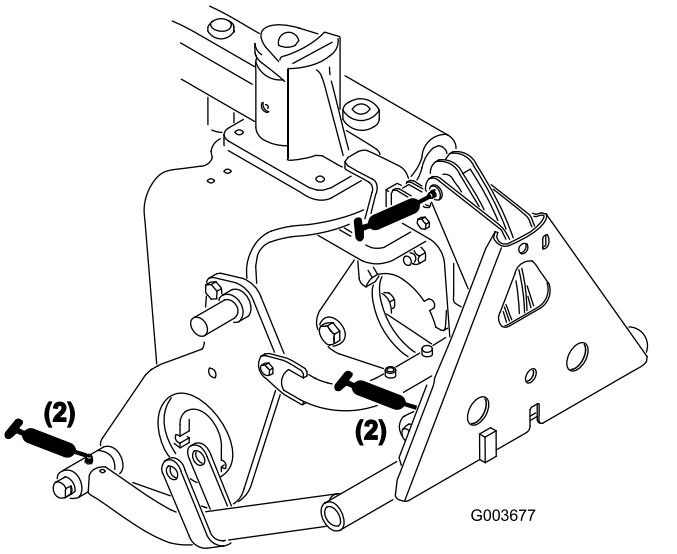


図 27

メモ

メモ

組込宣言書

The Toro Company, 8111 Lyndale Ave. South, Bloomington, MN, USA は、以下に挙げるユニットが、以下に列挙する指令に適合していることをここに宣言しますただし、各ユニットに付属する説明書にしたがって、「適合宣誓書」に記述されている所定のトロ社製品に取り付けることを条件とします。

モデル番号	シリアル番号	製品の説明	請求書の内容	概要	指示
08712	311000336 以上	フロントリフトフレーム	FRONT LIFT FRAME KIT	フロントリフトフレームアセンブリ	2006/42/EC

2006/42/EC別紙VIIパートBの規定に従って関連技術文書が作成されています。

本製品は、半完成品状態の製品であり、国の規制当局の要求があった場合には、弊社より関連情報を送付いたします。ただし、送付方法は電子的通信手段によるものとします。

この製品は、製品に付随する「規格適合証明書」に記載されている承認済みのトロ社製品に取り付けることによって、関連する諸規制に適合するものであり、そのような状態でなければ使用することができません。

確認済み



Tom Langworthy
エンジニアリング担当取締役
8111 Lyndale Ave. South
Bloomington, MN 55420, USA
9月 26, 2024

権限を有する代表者

Marcel Dutrieux
Manager European Product Integrity
Toro Europe NV
Nijverheidsstraat 5
2260 Oevel
Belgium

UK Declaration of Incorporation

The Toro Company, 8111 Lyndale Ave. South, Bloomington, MN, USA は、以下に挙げるユニットが、以下に列挙する指令に適合していることをここに宣言しますただし、各ユニットに付属する説明書にしたがって、「適合宣誓書」に記述されている所定のトロ社製品に取り付けることを条件とします。

モデル番号	シリアル番号	製品の説明	請求書の内容	概要	指示
08712	311000336 以上	フロントリフトフレーム	FRONT LIFT FRAME KIT	フロントリフトフレームアセンブリ	S.I. 2008 No. 1597

S.I. 2008 No.1597のSchedule 10に基づいて、関連する技術文書が作成されています。

本製品は、半完成品状態の製品であり、国の規制当局の要求があった場合には、弊社より関連情報を送付いたします。ただし、送付方法は電子的通信手段によるものとします。

この製品は、製品に付随する「規格適合証明書」に記載されている承認済みのトロ社製品に取り付けることによって、関連する諸規制に適合するものであり、そのような状態でなければ使用することができません。

This declaration has been issued under the sole responsibility of the manufacturer.
The object of the declaration is in conformity with relevant UK legislation.



Tom Langworthy
エンジニアリング担当取締役
8111 Lyndale Ave. South
Bloomington, MN 55420, USA
9月 26, 2024

権限を有する代表者

Marcel Dutrieux
Manager European Product Integrity
Toro U.K. Limited
Spellbrook Lane West
Bishop's Stortford
CM23 4BU
United Kingdom

Toro 製品保証

2 年間または 1,500 時間限定保証

保証条件および保証製品

Toro 社は、Toro 社の製品以下「製品」と呼びますの材質上または製造上の欠陥に対して、2 年間または 1,500 運転時間*のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証はエアレーターを除くすべての製品に適用されますエアレーターに関する保証については該当製品の保証書をご覧下さい。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「製品」を納入した弊社代理店ディストリビュータ又はディーラー に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

952–888–8801 または 800–952–2740
E-mail: commercial.warranty@toro.com

オーナーの責任

製品のオーナーは、*オペレーターズマニュアル*に記載された整備や調整を実行する責任があります。必要な整備や調整を怠ったことが原因で発生した不具合などの問題点はこの製品保証の対象とはなりません。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません

- Toroの純正交換部品以外の部品や Toro 以外のアクサセリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。
- 推奨される整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 製品を使用したことによって消耗した正常なパーツ通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキパッドおよびライニング、クラッチライニング、ブレード、リール、ローラおよびベアリングシールドタイプ、グリス注入タイプ共、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、ベアリング、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、この他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、フローメータ、チェックバルブが含まれます。
- 以下のような外部要因が原因で発生する不具合天候、格納保管条件、異物、不適切な燃料、冷却液、潤滑剤、添加物、水、薬品などの使用。
- 適正な燃料ガソリン、軽油、バイオディーゼルなどを使用しなかったり、品質基準から外れた燃料を使用したために発生した不具合。
- 通常の使用にともなう音、振動、磨耗、損耗および劣化。通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類「部品」は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって交換された部品は製品の当初保証期間中、保証の対象となり、取り外された製品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は再製造部品による修理を行います。

ディープサイクルバッテリーおよびリチウムイオンバッテリーの保証

ディープサイクルバッテリーやリチウムイオンバッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量kWhが決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。注リチウムイオンバッテリーバッテリーの保証内容をご確認ください。

クランクシャフトのライフタイム保証プロストライプ 02657 モデルのみ

トロ社の純正摩擦ディスクおよびクランク安全ブレードブレーキクラッチ統合ブレードブレーキクラッチBBC摩擦ディスクアセンブリを当初から搭載し、当初の購入者様がトロ社の推奨する運転方法および定期整備を遵守してご使用されたプロストライプ製品には、クランクシャフトの曲がり不具合に対するライフタイム保証が適用されます。摩擦ワッシャ、ブレードブレーキクラッチBBCその他のデバイスを搭載した製品には、このクランクシャフトのライフタイム保証は適用されません。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

Toro 社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。当社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

排ガス保証についてのご注意

米国においては環境保護局EPAやカリフォルニア州法CARBで定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。製品に同梱またはエンジンメーカーからの書類に同梱されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧下さい。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店ディストリビュータまたはディーラへおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は弊社の正規サービスセンターにご相談ください。